

経営学部経営学科

【教員養成の目標】

経営学部経営学科では、本学の設立を援助した渋沢栄一の「道德経済合一説」（倫理と利益の両立こそが真の国富をもたらす）の理念に基づき、「ビジネス人基礎力」を養成するため、以下の諸能力を有する教員の育成を目的としている。

1. 企業経営に関する専門知識（経営学、会計学）と実践的知識および幅広い教養を身に付け、それらの知識を活用し、企業経営（組織運営）における問題の発見・解決に立ち向かう意欲を有している教員。
2. 前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）という三つの能力（社会人基礎力）を有し、企業（組織）を管理する経営能力やビジネスを創造する高い戦略性・起業家精神を身に付けている教員。
3. 社会的、職業的自立を図るために、企業社会と国際社会の中で活躍し人と社会に尽くす使命感と、学び続け主体的に問題解決に取り組む意思を有している教員。
4. 経営学の学修を通じて、他者の意見や人格を尊重しながら、他者と協働して社会で活躍できる素養を有している教員。

【当該目標を達成するための計画】

上記の教員養成を実現するため、以下のとおり教育課程を編成する。専門教育では、1年次に経営学・会計学の基礎科目、2年次以降は、経営学・会計学の専門科目、簿記検定・マネジメント検定・TOEICなどの資格取得教育、大企業・優良中堅中小企業との実践的な産学連携職業教育、また、4年間のゼミナール教育を通じて、「ビジネス人基礎力」を修得する。その一方、4年間の教職課程で、専門職として必要な資質を養い、学識と実践力や倫理観と使命感をもつ教員を育成するため、教員の自覚と役割、教育課程・教育方法、生徒の心理、生徒・進路指導などを科目として設置している。4年次には教職課程の総仕上げである教育実習で、現職の教諭の指導を受け、学習指導・生徒指導・学級経営・課外活動などの教育実践に参加する。